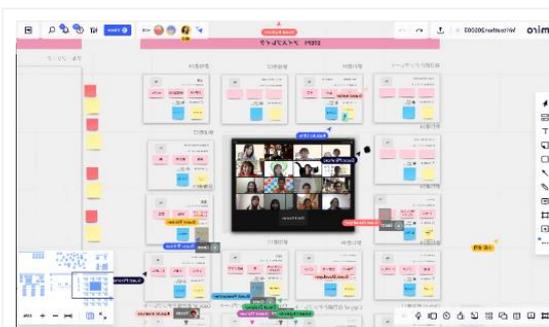
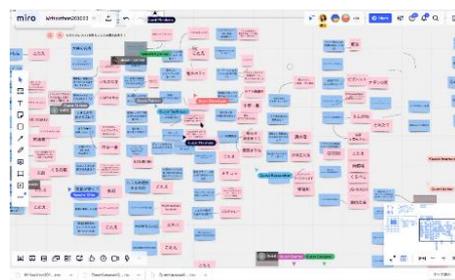


団体名	オープン川崎
事業名	川崎の地域 LINE ボットを作ろう！

<p>目的・背景</p> <p>近年では市民がまちに愛着を持つシビックプライドが重要だともいわれているなか、川崎都民という言葉があるように、川崎市に住んでいながら家へは寝に帰ってくるだけで地域とのつながりが希薄な住民が少なくないと言われています。また、COVID-19の影響により在宅勤務が増えたことにより地域が身近になってきています。そこで「シビックプライドの醸成」することを目的として、地域のことを知ってもらい、自分が住んでいる地域に愛着を持ってもらうことを目的としています。</p>	<p>事業の効果</p> <p>今まで埋もれていた、または知らなかった川崎市内の地域の魅力を発掘するために、地域あるあるや知りたいことを出したり、回答を考えたりするライタソン(イベント)を開催しました。ライタソンで集約された地域情報は LINE チャットボットから FAQ (よくある質問と答え : Frequent Asked Questions) 形式で地域情報を知ることが出来るようになり、またライタソン参加することで地域の知らないお店を知る事が出来ました。</p>
<p>実施結果</p> <p>当初の計画では、実際に街歩きをしながら、まちや地域の飲食店の情報を集めて、そのデータでチャットボットを作成するワークショップを開催する予定でした。COVID-19の状況を鑑み、オフラインの活動を自粛し、今年度の活動はオンラインを中心にした活動となりました。</p> <p>手探りでありましたが、オンラインでのワークショップを新規設計しながら、ワークショップを開催し、LINEでのチャットボットのベータ版を作成することができました。</p>	<p>事業の課題と今後の展望</p> <p>実際の地域の飲食店情報や口コミ情報は、まだまだ不足しているので継続してデータ収集のライタソンを開催していく予定です。収集したデータはオープンデータとして誰でも利用できるような形式で公開予定です。</p> <p>チャットボット本体も地域との連携を深めていき、飲食店以外情報も集められるように、より良い物に改善をしていく予定です。</p> <p>今回の仕組みはLINE以外にも展開可能なものなので、他のアプリや他の地域への横展開も可能なものにしていく予定です。</p>



オンラインライタソンの様子



ライタソンで集まった飲食店情報



川崎チャットボット

団体名	NPO 法人 studio FLAT
事業名	Maruche FLAT

<p>目的・背景</p> <p>2024 年の川崎市制 100 周年に向けて、老若男女、障がいのあるなしに関わらず、川崎のまちに関わる人びとの多様性をや可能性を活かし、アートというツールを通して、地域の活性化および幸福を追求することを目的とします。</p> <p>また、この事業を通じて障がいのあるアーティストの経済的自立を目指し、アートを通して共生社会を実現することを目的とします。</p>	<p>事業の効果</p> <p>この事業を通じて既存の福祉とは違った切り口、すなわちアートというツールによって、障がいのあるアーティストと地域をシームレスにつなぎ、障がいあるなしに関わらず文化芸術活動に親しむ場を設け、これをもってすべての人が地域社会での他の活動に参加しやすくなる地域環境を作り上げることを目標とする。</p> <p>また、この事業により共生社会への実践的なソーシャルインクルージョンの形を示し、アートによって人をつなぎ、新しい未来を創造できるイノベーションとなることを事業の目標とする。そして、来場者や参加者に対して文化芸術活動に対する意識や、まちに住む多様な人びとに対する考え・見方、の変化を体験し実感できる活動となることを成果とし、地域社会のより密接な関係性を築いていく。</p>
<p>実施結果</p> <p>地域とのシームレスなつながりとして今回コトニアガーデン新川崎参加店舗数 16 店舗中 16 店舗が協力。うち、さをり織(協働作業)をコトニアガーデン新川崎みんなで織って展示する企画に協力した店舗 5 店舗うち保育園園児 13 名も参加。Studio FLAT 作品を各店舗にて展示する企画参加は 10 店舗。タリーズコーヒーでは店内のお客様に興味を持っていただき、studioFLAT 内の作品展示まで誘導できました。作品を展示することで地域環境づくりもできアートがひとつをつなぐを実践できました。そしてイベント当日もさをりワークショップにて参加者 100 名以上(地域の子供達)で 4m のさをり織が織り上がりました。身近なまちに住む多様な人びととつながりができました。 今回の Marche FLAT は地域社会のより密接な関係性を築く SDGs 活動として行う事ができました。</p>	<p>事業の課題と今後の展望</p> <p>今回の課題はスタンプラリーで来場者の把握をすることでありましたが、そこまで企画全体のスケジュールが動けなく間に合わなかった。その代わりピンチをチャンスに変えることで ICT 導入でネットショップにて地域社会との連携を形にした商品を販売できた。そのサイトでの閲覧数が期間中 1000 を超えました。そして商品販売3件ありました。今年度の地域との連携の大切さやつながりは今後につながります。次年度はさらに川崎の地元企業やスポーツ団体とのアートを通じた活動を SDGs ゴール目指して推進したい。</p>



地域のタリーズコーヒーとのコラボ



当日のワークショップの様子



地域の保育園への作品納品

団体名	笑顔いきいき NPO 法人川崎北部グループリビング
事業名	地域で学ぶ認知症

<p>目的・背景</p> <p>世界的にも高齢化が進んでいる日本において、地域でも特に認知症について よりよく知るが必要になってきている。現実には、私たちの周りにも この問題をかかえながら暮らしている方が見受けられる。</p> <p>知ることにより、ただ手をこまねているだけでなく 偏見をなくし援助し協力し合える地域社会に結びつけていきたい。</p>	<p>事業の効果</p> <p>新型コロナウイルスの影響で、予定がコロコロ変わった。</p> <p>日常的に診療をされておられる専門家の医師、認知症の人と家族の会の代表、会が作成した30分間のDVD 上映という三本立てで 長時間ではあったが</p> <p>会場参加者30名のアンケートでは80%が評価していた。</p> <p>(ZOOM 申し込みの方は、一部配信に不具合がなどでアンケートまで及ばなかった)</p>
<p>実施結果</p> <p>感染症、緊急の情勢から 初めてのZOOM 併用の企画になったが、会場の選択にも十分なチェック(Wifi 環境)に精通してなかったこともあり、一部配信できず、ZOOM で参加を申し込んだ(40名ほど)方に迷惑をかけてしまった。その方の中からも『次回又 ZOOM で学習会を計画したときには是非参加したい』というメッセージも送られてきた。</p> <p>会場での参加者は30名ほどで、3時間という長丁場ではあったが『長すぎる』という意見もあったが、内容は参加者に届いたと思う。</p>	<p>事業の課題と今後の展望</p> <p>時として、ZOOM との併用を経験できたことはいろいろあってスムーズにはいかない事に遭遇したが、良かった。今後参加者から さらに感想、要望を聞き問題別に設定するなど、介護事業所、民生委員、地域の方などと地域を意識した活動を検討していきたい。</p>



9/27 認知症講演会後の杉山先生との質疑応答1



9/27 かわさき総合自治会館における認知症学習会の様子

団体名	さんごのからだ
事業名	妊娠・出産が女性の体力・身体機能に関わる影響の検証～体力測定を用いて～

目的・背景	事業の効果
<p>スポーツ庁の調査によると 30 代女性の体力、運動能力は低下傾向にある。その背景に妊娠・子育てにより、運動機会を持ちにくいことが予想される。川崎市内で過去に行った「からだケア講座」(Women's Body Labo 主催)でも 50-60%に体の不調(肩こり、腰痛、尿もれなど)を抱えていた。しかし産後の女性の体力や身体機能の基礎データはない。今までの活動では、からだケアの必要性を訴えていたが、参加する女性の訴えも漠然としていた。今回、コラボ 50 の事業を通して産後女性の心身の状況を見える化し、客観的に把握することで産後女性の周囲の関係者も現状を具体的に知ることができる。これは産後女性のケアの必要性や対策を考える根拠となる。また運動機会獲得の推進へ繋がり、結果として元気な母親や子供たちが増えることを目的に本事業を実施した。</p>	<p>①産後女性の体力・身体機能の実態把握 コロナ禍の影響を受けたが、体力測定を実施し産後女性の体力・身体機能の「見える化」の一步となる資料を作成することができた。それをもとに地域へ啓発するためのリーフレットの作成へとつながった。</p> <p>②オンラインによる情報提供 本プロジェクトの HP を作成し、また SNS でも事業を周知した。またオンライン講座により個々のニーズに沿った情報提供も実施できた。</p> <p>③啓発リーフレットの作成 本事業の成果物として、測定内容を盛り込んだ体力測定を促すリーフレットを作成した。3 月より各地で配布開始し、啓発を継続する。</p> <p>④専門家への啓発 学会発表を行い、専門家への地域活動の啓発も行うことができた。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>①産後女性の体力・身体機能の実態把握 コロナ禍の影響を受けたが、1 年間で 26 名の産後女性が体力測定に参加した。コラボ 50 参画以前のものと同事業の途中まで得られた結果の分析から、<u>全数に「痛み」の経験があり、半数が「ロコモティブシンドロームの疑いあり」</u>の状態にあるという結果が得られた。</p> <p>②オンライン講座の実施 コロナ禍で体力測定の縮小を余儀なくされたが、新たにオンライン講座を 2 回シリーズで行った。11 名が参加し、その後、個別相談にも対応した。</p> <p>③リーフレットの作成 本事業の成果物として、産後女性に自身の体力測定を促すリーフレットを作成した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の主軸となる体力測定が身体接触を伴うものであり、コロナ禍においては事業の縮小を余儀なくされた。 ・川崎と神戸での二拠点で実施したが、神戸での測定がごくわずかにとどまった。マンパワーを増やし、測定機会の確保について改善する。 ・当初の計画を大幅に変更することとなり、地域団体や行政との連携に関しては次年度改めてその機会を模索していく。 ・体力測定に参加した参加者のみにとどまらず、広く産後女性の健康の実態について啓発するために、対面・オンラインのハイブリッドで参加可能な市民向けのフォーラムを企画し、より啓発について拡充していく。



1. 体力測定の様子(座位体前屈)



2. 感染対策に考慮した体力測定



3. リーフレット